

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	オリエンテーション：受講者との講義の進め方の相談～どのような内容の講義とするかを確認する。	—	対面
	第2回	ITの現場と会計情報：財務会計と管理会計に関わる考え方についてディスカッション～IT投資の動向とIT投資マネジメントに関する基礎理論を講義する。	—	対面
	第3回	企業会計の基礎：B/S、P/L、キャッシュフローの読み方を学習～会計初学者をメインとして、財務諸表の読み方や会計特有の用語やルールを確認していく。	—	対面
	第4回	財務諸表クイズ(1) 財務諸表を読み取るためのポイント確認とディスカッションを行う。具体的な指標を計算して数値を読解する。	—	対面
	第5回	財務諸表分析の基礎：財務諸表分析と企業価値の計算について学習～企業価値に関する諸見解を講義し、企業価値経営、EVA経営についての学習を行う。	—	対面
	第6回	財務諸表クイズ(2)：財務諸表や企業価値に関わる演習とディスカッション～数社の匿名企業の財務諸表データを一覧して、どの企業かを当てるクイズを行う。	—	対面
	第7回	経済性計算の基礎：キャッシュフローによる経済性計算の考え方～意思決定のための会計情報の利用について学習する。	—	対面
	第8回	経済性計算演習(1)：経済性評価クイズ～簡単な設問から、損した金額や利益の金額などを導き出す演習を行う。	—	対面
	第9回	経済性計算による意思決定問題：資金の時間価値・意思決定問題のタイプと判断基準～意思決定のタイプを数タイプ類型化し、意思決定に必要な経済性の判断基準の妥当性について学習する。	—	対面
	第10回	経済性計算演習(2)：意思決定問題演習～数問の問題を提示し、どのような意思決定タイプかを見抜き、経済性の計算に必要な数字の取り扱いを学習する。演習として経済性計算を行う。	—	対面
	第11回	PICによる経済性計算：キャッシュフローによる投資案の評価と選択～複数の投資案件をどのように優先づけていくかについて具体的な判断方法を学習する。	—	対面
	第12回	経済性計算演習(3)：投資意思決定演習～投資選択問題を解き、IT投資評価につながる視野を得る。	—	対面
	第13回	IT投資マネジメント：IT投資評価について経済性計算、総合的評価などの側面から検討～経済性分析をIT投資評価へ応用することに対する諸学説をレビューする。	—	対面
	第14回	BSCを使ったIT投資マネジメント：BSCと連動したITポートフォリオなどの作成に関わる演習とディスカッション～経済性分析によらないIT投資マネジメントの手法について検討する。	—	対面
	第15回	総括：総括として、業績評価、経済性計算、BSCを実践する上での課題などについて議論する。	—	対面
	試験	範囲は講義全体として、①計算問題、②意思決定問題、③論述問題のいずれか2つを課す。	—	対面
成績評価	ミニレポート：28点 授業内での討論を踏まえてミニレポートとしてまとめる。その内容に対して評価すると同時に、授業への貢献度・有益度を評価する。(討論対象回4回×最高7点) 課題：50点 授業内にて行う演習の内容によって評価を行う。(演習対象回5回×最高10点) 知識習得：22点 最終講義時に確認テストを実施。試験は22点満点とする。なお、時間的制約などから試験を同等のレポート提出とする場合もある。			
教科書・教材	授業ごとに事前にダウンロード可能にしておくので、授業時に使用できるようにしておくこと。			
参考図書	1. 吉川武文(2016)『技術屋が書いた会計の本』秀和システムズ 2. 小酒井正和(2008)『BSCを活用したITマネジメント』白桃書			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	—		
	継続的学修と研究の能力	—		
	チーム活動	—		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—		
	ドキュメンテーション	—		
	革新的概念・発想	—		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	—		
	問題解決	—		
	リーダーシップ・マネジメント	—		
	ファシリテーション・調整	—		

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	マネジメント系科目群	科目名	情報ビジネス特別講義 3			教員名	大塚 有希子
		(英文表記)	Organization Theory				

概要	<p>組織における組織構築、組織運営、組織継続について学習する。授業では、組織管理の知識を網羅的に整理しながら、組織マネジメントの方法を紹介する。また、事例発表研究などを通して組織管理の制度の光と影考えていくことで、知識の定着を図り、社会人としての基礎的なビジネス知識基盤を得ることを方針とする。</p> <p>本講義は、木曜日以降の都合の良い時間に録画コンテンツ教材を使った個人のペースの学習を行い、翌火曜日の大学院での対面講義によってその学習内容について発表・討議を行う「反転学習」コースである。事前学習は重要ではないが、自組織または対象組織について自己研究が必要となることを認識して講義に臨んでほしい。</p>			
目的・狙い	<p>この授業は、学習者が組織人として知っておくべき組織に関する基礎的な識を習得することを目的とする。組織の間接部門の重要性や業務について、事例研究を基に自分自身や自身の組織について考えが及ぶことができるようになることも狙い一つである。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A1) K-03-11-01: 情報セキュリティ (レベル2) 情報の脆弱性 (A1) K-03-11-02: 情報セキュリティ管理 (レベル2) 情報資産とリスクの概要、情報セキュリティホリシ (A1) K-03-11-03: 情報セキュリティ対策 (レベル2) アカウント管理、不正アクセス対策、情報漏えい対策 (A3) K-06-16-01: システム監査 (レベル4) 意義と目的、対象業務、計画・実施・報告、監査基準 (A3) K-06-16-02: 内部統制 (レベル4) 意義と目的、IT ガバナンス、COBIT、評価と改善 (A2) K-08-19-01: 経営戦略手法 (レベル2) 競争戦略、コアコンピタンス、企業理念、事業ドメイン (A2) K-08-19-02: マーケティング (レベル2) 広告戦略、ブランド戦略 (A2) K-08-19-03: ビジネス戦略と目標・評価 (レベル2) ビジネス戦略立案、ビジネス環境分析、戦略目標 (A3) K-09-22-01: 経営・組織論 (レベル4) 経営組織、CI、コーポレートガバナンス、ヒューマンリソース (A3) K-09-23-03: 会計・財務 (レベル2) 財務会計、管理会計、会計基準、財務指標、IFAS (A3) K-09-23-03: 労働関連・取引関連法規 (レベル4) 労働基準法、外部委託契約、労働者派遣法 (A3) K-09-23-04: その他の法律・ガイドライン・技術者倫理 (レベル4) コンプライアンス、会社法</p>			
前提知識 (履修条件)	社会人等、組織の中での業務経験がある。または組織の中での業務を希望している。			
到達目標	上位到達目標			
	組織の中で、組織構築、組織運営、組織継続に関するマネジメントの責任者としての業務ができるようになる。			
到達目標	最低到達目標			
	組織の中で、組織構築、組織運営、組織継続に関するマネジメントのオペレーション業務ができるようになる。			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	◎	偶数回の講義は録画講義を自分のペースで受講する、質問などはLMSまたは奇数回の対面講義で受け付ける。火曜日の対面講義は品川キャンパスで自宅学習の復習と演習を中心に行う。 なお、対面授業日とビデオ受講日は変更になることがあるので、授業の情報に注意すること。	
	対面授業	講義 (双方向)	—	
		実習・演習 (個人)	—	
		実習・演習 (グループ)	—	
	サテライト開講授業	○		
その他	—			
授業外の学習	<p>本講義は事前に LMS に UP した録画講義で自分のペースで理解できるまで学習・研究を行う。学習レベルの確認のために講義受講後 LMS で理解度テストを課す場合もある。また、次回の対面講義までに事例研究および対面講義での発表を課すことがある。</p>			
授業の内容	<p>本講義は、独自のレジюмеで行う。対面授業では講義に関する事例研究の発表および討議を行う。対面授業では事例研究・討議をもとにした考察レポートを提出する。</p> <p>なお、下記の各回の内容は、昨年度および一昨年度にとりあげたテーマを基にしているが、例年、受講生の興味のあるテーマをとりあげている。興味のあるテーマに取り組みたい場合は、できるだけ第 1 回または第 2 回の授業に出席または視聴すること。</p>			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	講義概要の説明と受講者のスキル診断：講義の目的と学習内容の解説し、学生が講義選択の判断ができるようにする。また、授業において一貫した視点を持つための研究テーマを選択する。	有	対面
	第2回	組織構築 1 組織戦略と I R 組織戦略が反映されている財務情報の見方と、情報公開についてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第3回	第2回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第4回	組織構築 2 組織戦略と C I 組織戦略に基づいた企業イメージの発信や企業文化についてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第5回	第4回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第6回	組織構築 3 組織構造 組織戦略に基づいた様々な組織構造のあり方と特徴についてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第7回	第6回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第8回	組織運営 1 人事制度 多様な働き方とワーク・ライフ・バランスについてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第9回	第8回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第10回	組織運営 2 労務管理 労務管理制度、給与管理制度等、様々な労務管理の制度についてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第11回	第10回の内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第12回	組織運営 3 人材育成 目標管理制度や人材の能力開発に関する制度についてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第13回	第12回の内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第14回	組織の継続 リスク管理 C O B I T やシステム監査等、組織継続のリスク管理についてビデオ学習で学ぶ。	—	録画 (対面なし)
	第15回	第14回の内容についての事例発表と討議。	有	対面
	試験	試験	—	対面
成績評価	授業貢献度 30 発表得点 30 試験点数 40			
教科書・教材	教科書は特に指定しない ビデオ講義資料（及び課題を指定された場合）は、対面講義時に持参すること。			
参考図書	参考図書は特に指定しない			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	—		
	継続的学修と研究の能力	—		
	チーム活動	—		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—		
	ドキュメンテーション	—		
	革新的概念・発想	—		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	—		
	問題解決	—		
	リーダーシップ・マネジメント	—		
	ファシリテーション・調整	—		

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	3Q
科目群	事業アーキテクチャ系科目群	科目名	経営戦略特論			教員名	松島 桂樹
		(英文表記)	Corporate Strategy				

概要	企業経営・事業展開で必要とされる経営戦略の基本的理論構成とその体系、経営思想、経営計画、事業戦略構築、組織戦略等を学ぶ。また、経営・事業の戦略の構築・実行・評価のための枠組み・手法を修得する。			
目的・狙い	<p>この授業では、経営学と経営戦略論に関わる多様な論文を検討することで、多面的、多角的な経営と企業戦略について学びます。とりわけ、従来の経営学の理論を、履修者の実務の観点から振り返り、その意義と役割、有用性を議論し、これらの理論が、経営実務においてどのように有効か、妥当かを、自分の実務に照らして検証します。</p> <p>履修者には、各理論を分担して、整理報告し、議論の基礎を提起していただきます。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A2) K-07-17-01: 情報システム戦略(レベル3) システム化構想、システム化基本方針、全体開発スケジュール</p> <p>(A2) K-08-19-01: 経営戦略手法 (レベル4) 競争戦略、差別化戦略、コアコンピタンス、M&A、企業理念</p> <p>(A2) K-08-19-03: ビジネス戦略と目標・評価 (レベル4) ビジネス戦略立案、ビジネス環境分析、ニーズ・ウォンツ分析、競合分析、PEST分析、戦略目標、CSF、KPI、KGI、バランススコアカード</p> <p>(A2) K-08-19-04: 経営管理システム (レベル3) CRM、SCM、ERP、意思決定支援</p> <p>(A3) K-09-22-01: 経営・組織論 (レベル4) 経営組織、CI、コーポレートガバナンス、ヒューマンリソース</p>			
前提知識 (履修条件)	経営に関する基礎的知識、なお財務的知識があることが望ましい			
到達目標	上位到達目標			
	企業経営と経営戦略に関する自分の考えを人に説明できること			
到達目標	最低到達目標			
	企業経営と経営戦略に関する基本的な知識を理解し、説明できること			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義 (双方向)	○	毎回のテーマに関する講義と討議
		実習・演習 (個人)	—	
		実習・演習 (グループ)	—	
	サテライト開講授業	—		
その他	—			
授業外の学習	指定された論文、資料を事前に読んでくる。輪番で履修者が要約資料を発表します。			
授業の内容	この授業では、経営学と経営戦略論に関わる多様な論文 (ドラッカー、ミンツバーグ、ポーター、バーニー、リー、ブラハラッド、キャプランなど) を議論し、自分の実務に照らして検証します。			